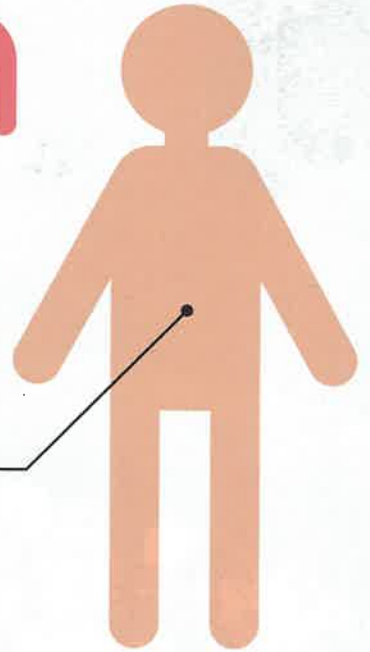


臓器のはなし



今月は コロナ私見Ⅱ

個人に求められる “うつさない” マナー

5類に移行しても
マスク卒業は「？」

政府は、新型コロナウイルスの感染症法上の分類について、5月8日に「2類相当」から季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げる決定をしました。それに伴い、3月中旬からマスク着用も基本的には、個人の判断に委ねる流れになっています。

2021年にデルタ株が流行した時期は高齢者の陽性者致死率が非常に高く、私も医療従事者としてそう感じていました。感染当初には軽症だったお年寄りの容体が、急変して亡くなられたケースにも何度か遭遇し、驚き落胆したものです。

今ではコロナに対する知見が積み重なり治療法も改善。ある程度、重症化した段階でも、投与すれば効き目がある薬などもそろってきました。ワクチンは賛否両論ありますが、私が診ている範囲に関しては、突然の重症化も見受けられませんので、接種して良かったと考えています。

このように深刻度は下降傾向ですが、インフルエンザなどと比較しても、依然として感染力が強いのが新型コロナウイルス。爆発的な感染が、また起きる可能性も否定できないと思います。5類に移行したからといって、すぐにマスクがまったく要らない日常に戻るのには難しいでしょう。

状況を見ながら 会社ごとの対応を

最近の傾向から考えれば、重症化リスクの低い若い人たちの集まりな

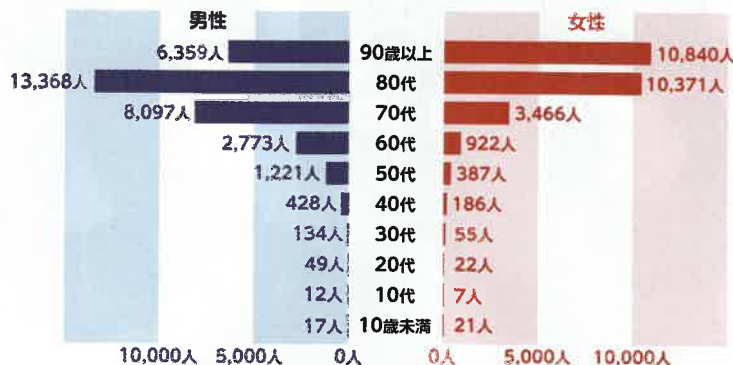
ら、マスクを外す流れに。一方、高齢者が集まる老人ホームや医療機関では、持病や基礎疾患のある方に、つつす可能性があるので、今までどおりマスク着用が基本となりそうです。

絶対に感染予防できるわけではなく、空中に浮遊する微粒子のウイルスを吸い込んで起きるエアロゾル感染に対するマスクの効力は、対インフルエンザより弱いとの報告もあります。ですが、やはり我々ができる数少ない感染対策がマスク着用であるのは確かです。

ただし5類に変われば、マスク着用を強制するのは難しくなります。勤務先でも社員に強制できない一方、引き続き感染症対策・予防も行わなければいけませんから、経営者の方にとっては悩ましいところでしょう。

常識的な判断をベースにしてください。たとえば（コロナでなくとも）咳が出る場合、マナー上、マスクを着用しますよね。また感染者が増えてくれば、警戒度は上げなければなりません。それぞれの会社の状況によって対応すべきだと思います。社員との関係性が、これまで以上に重要になってくるのではないのでしょうか。

新型コロナウイルスによる
性別・年代別の死亡者数（累積）
2023年2月21日時点



出典：厚生労働省「データからわかるー新型コロナウイルス感染症情報ー」

監修

浅海 直
あさうみ すなお
(医療法人社団
平成医会 産業医)



1993年千葉大学医学部卒。2007年12月まで松戸市立福祉医療センター東松戸病院(内科副部長)、2008年1月より板橋区役所前診療所に勤務。専門分野は糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患等の代謝・内分泌疾患および老年医学。